

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101518		
法人名	社会福祉法人 紀三福会		
事業所名	紀三井寺苑グループホーム	【ユニット名:グループホーム I 号館】	
所在地	和歌山県和歌山市紀三井寺617-3		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	平成29年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は桜の名所でも有名な紀三井寺の近くに位置する2ユニットのグループホームです。春には花見客で賑わいます。利用者様もスタッフと一緒に花見に出かけたりします。花見以外にも、個人支援や楽しみを持って、活気のある生活を過ごしていただけるように、毎月、季節感を感じる行事やレクリエーションを実施しております。グループホームでの生活は9人1ユニットとして共同生活を送っていただく中で、これまでの在宅での生活の延長と捉え、家事などのお手伝いや身の回りのことなど出来るところは自己にて行っていただけるように支援して今までと同じように暮らせるよにと考えています。また、生活での不便が出てきたところは職員が支えとなり、利用者様、家族様が安心でき、個々の目標・希望に応じた生活が送れるよう支援させていただいています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3070101518-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成29年1月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者にとって居心地の良い場を提供できるよう個別支援に力を入れている。一人ひとりの力を引き出し自由に生活を楽しめるよう取り組んでおり、職員や利用者の表情や会話にくつろいだ雰囲気がかえらる。感染症予防のために環境を整え、転倒予防の為にリハビリを取り入れる等しながら、利用者の安全を重要視し、十分な見守りができるよう取り組んでいる。、同敷地内には特別養護老人ホームやデイサービス等の施設もあり、それらの施設との連携で法人全体が高齢者介護の拠点として地域交流に取り組み、夏祭りは家族が利用者と一緒に楽しめる催しとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで1ヶ月を振り返り、また新たな目標をあげることで入居者に暮らしやすい環境を築けるよう取り組んでいる。	個別支援に力を入れて理念の共有に努め、利用者が「その人らしく」過ごせるよう全職員で取り組んでいる。一人ひとりの利用者に担当する職員を決めて支援できる体制を作り、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業主催の夏祭りや毎月1度以上行うふれあい教室に参加して頂ける様な企画を考えお知らせをしています。参加して頂いた地域の方々とはより良い交流を深めてもらえるよう努めている。	買い物等、地域に出る機会を持つようして地域とのつながりのある暮らしを支援している。傾聴、読み聞かせ等、地域のボランティアとの交流を大切にして訪問を受けている。中学生の職業体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方、家族様に事業所で行っている介護教室の参加を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域包括センターの職員や家族様、民生委員会と意見交換しサービスの向上に繋げている。	委員のうち民生委員の出席はあまり無い。家族、地域包括支援センター職員が主な出席者となっているが、年6回のうち家族会の日に合わせて開催する2回は、土・日の開催で、地域包括支援センターの出席は無い。	会議の内容がより充実したものになるよう内容や進行を見直し、地域の民生委員、包括職員が毎回役割を持って関わり、具体的な意見が運営に活かせることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の方等に事務連絡や報告を行っている。パンフレットを持ち込ませて頂いたりしている。	機会を見つけては市役所に足を運び情報提供する等、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような行為が身体拘束に繋がるか、月に1度、スタッフ会議で見直し、拘束の無いケアに取り組んでいる。	職員の見守りの体制が整っているときは、日中玄関の鍵はかけないようにしている。鍵による閉塞感を感じないように見守り、帰宅願望の有る利用者の安心が得られるよう自宅周辺をドライブしたり、散歩で気分転換を図るなどしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員がしっかりと認識を高め、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は利用されている方はいないが、家族様に必要に応じて制度があることを説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には必ず説明を行い、契約時も再度説明とご理解の確認をし、家族様のご要望も伺っている。また、事業所の取り組み方や方法についてもお伝えし、その際もご意見やご要望を伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会等で少しでもご意見やご要望を引き出せる様に努めている。そこで頂いたお話しをもとに、スタッフ全体で話しあい、運営に反映させるよう努めている。	毎月発行する利用者の写真を載せたグループホームの便りや2カ月ごとに送る健康面など利用者の生活の報告で、家族に日ごろの様子を知らせて、訪問時や家族会で、気づいたことを話せるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り等で職員の意見を聞いたり、個別に意見や要望を聞き、スタッフ会議等で全体で話し合い、反映させている。	季節の行事は行事担当者が企画して皆で話し合っている。職員は日常的にそれぞれの視点で考え、意見や提案を出して行事の企画等に反映できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課で実績の評価を行い、自由記述にて条件の整備に努め、個々のやる気向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度DrやNsを交え専門的な医療に関する知識を得るために勉強会を行っている。又、法人の講座に参加したり、スタッフ会議等でも勉強会を行い、職員が参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設より、様々な他での研修に参加し、そこで出会った他の施設の方々と交流を深め情報を得ることで、質の向上に繋げるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族様の協力を得て、本人様の生活状況を把握できるように年代別背景や好きな物・嫌いな物シートに記入して頂き、本人様が入居後安心して過ごして頂けるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が抱えている不安や悩み、要望等を傾聴し、より良い関係作りが出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様の思いや考えを確認し、状況に応じた支援を心掛けている。状況に応じて他のサービスの利用を含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事はして頂き、出来ない点は職員がサポートし支え合いながら、24時間共同生活を営んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に何か変化がある際は都度連絡を行い、面会時には日中の本人様の様子についてお伝えしている。その中で、家族様の意向や協力を得て本人様に最良な支援に取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様以外にも知人の方がたまに面会に来られたり、個別支援等を通じて外出し、その方が濃く記憶に残っている場所に共に外出したりしている。	気軽に訪問しやすい雰囲気への対応に努めており、家族が知人を連れて訪れることもある。以前住んでいた家の近くなど、なじみの場所、記憶に残る風景をドライブしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人のパイプとなり、きっかけを作ることで、利用者様同士が良い関係性を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退職された後も、面会に行き様子を伺うなど、アフターケアに努めている。最近では、退所された方が利用者様に面会に来てくださり、その際に現在の状態などについてお尋ねしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり方に注意を払い、個々の言動に少しでも変化や訴えがあれば記録に残し、スタッフ全体で解決するように取り組んでいる。利用者様が少しでも安心して過ごしてもらえる様に日々検討している。	利用者の言葉や表情から思いを読み取り、生活シートに利用者の様子や言葉を記録している。各利用者に担当者を決めて、希望する暮らしの把握に努め、職員間で共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしについて本人様・家族様に協力を得て情報収集し、その方らしい生活を送って頂けるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人に24時間シートを作成し、毎日記載している生活シートと併用して、その方の生活リズムや状態の変化に気づけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様が直面している課題や問題点をみつけ、家族様の協力を得て、その人らしさを守れる支援を職員全体で検討し介護計画を作成している。	生活シート等、利用者の情報に基づいた課題を踏まえて作成した計画は半年ごとに作成しなおしている。毎月のスタッフ会議で内容を検討し、支援の経過を次の計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が個々に認識を深めるために、情報を共有し生活の様子や心身の状況、ケアの実践と結果などを記録し、改善すべき点は皆で話し合い介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療との連携を活かし、急変時や特変事でも訪問診療や訪問看護を行うように体制を整えている。また利用者様1人1人に応じた柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを送って頂けるように、警察や消防、地域ボランティアなどと協力し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族様の希望されるかかりつけ病院を選んで頂いている。かかりつけ病院とは適切な医療を受ける事ができるように連絡を取り合い関係作りを行っている。	かかりつけ医は自由に選べるが、ほとんどがホームの協力医療機関の医師による往診を受けている。協力医療機関以外の受診は緊急時以外は家族で行うこととしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師や訪問看護師に、何かあればいつでも連絡出来るように連携をとり、日々の健康状態や体調の変化などについても相談し、適切な対応を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際は、出来る限り安心して治療に取り組んで頂き、早期退院となれるように病院関係者と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、本人様・家族様と主治医・看護師・スタッフと話し合いを行い、グループで行える医療的処置の範囲等伝え相談し、利用者様・家族様の意向に添って決定している。必要に応じて系列の特別養護老人ホームへの支援も行っている。	看取りはしない方針であり、重度化した場合は様子を見て病院や隣接の特養に移動する旨を入居時に伝えている。実際には、重度化した場合の移動のタイミングを決めることが難しく、しばらくは主治医と相談しながらできる範囲の支援を行なっている。	今後、重度化する利用者が増加したときのために、看取りに向けて、より具体的にグループホームでできる範囲の支援体制を整えることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防士や看護師の協力を得て、他部署合同で定期的に応急手当・救急法の訓練を行っている。グループ内でも勉強会を通じて、スタッフ1人1人が身に付くように実践に備え取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練や救急法の講習を設けている。職員間でも緊急時連絡網をもとに役割分担もきちんと決めている。	同敷地内の法人施設で火災の避難訓練が実施され、職員も参加している。マニュアルに沿って避難できるよう準備しているが、グループホームでの避難訓練は行われていない。	グループホーム独自の避難訓練を実施し、実際に近い形を想定する中で災害に備えることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様、一人一人の個性を理解し、その方の人格を尊重したプライバシーを損ねない声掛けや対応に努めている。	1号館では鍵をかけられなくしているトイレを覗き窓は一人ひとりの状況を見て、布等で隠し必要時には利用者に説明しておくなど、利用者自身が人として大切にされていると感じることのできる尊厳をもった対応が望まれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様がいつでも自由に自己決定が行えるように、日々柔軟な関わりをもち、普段のコミュニケーション等からも情報を得るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の生活パターンやその日によるペースを大切に、希望や要望に添うように支援をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男女問わず、起床時等に整髪や更衣を手伝い、月に1度美容師の訪問があり希望があれば好みの髪型にカットして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューも利用者様の好むメニューを考え、調理でも一緒に行えるメニュー等を考え、準備・後片付けなど一緒に行っている。	歩行が困難な利用者もテーブルで野菜の下処理や食後の食器拭き等を行えるよう工夫して、準備や片付けに加われるよう配慮している。昼食時はユニットのテーブルで職員も同じ食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人一人の食事量・水分量を都度チェックし、栄養バランスにも注意を払っている。また、摂取量の変化等、状況に応じ考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けや、ポリドント洗浄のケアを行って。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに対する利用様の自立支援を目指すと共に、排泄による失敗時など、サポートすることで排泄に対する自身を持って頂けるように支援している。	排泄記録をもとにパターンを把握し、自立に向けてトイレ誘導しているため、使用するパッドの枚数を少なくできている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために軽運動や水分強化など取り入れ予防に努めている。また、日々の排便状況をチェックし、排便状況を把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望やタイミングに合わせて入浴を行えるように努めている。入浴を嫌がられる利用者様には、少しでも入浴に対し前向きになって頂けるように声掛けなど工夫し取り組んでいる。	午前の時間帯におおよそ2～3日に1回のペースで入浴している。入浴をおっくがる利用者が多いが、誰か一人が入ったら、入る気持ちになりやすいので、声かけのタイミングを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転気味の方は、日中レクリエーション等に参加して頂き、夜間良眠して頂けるよう支援している。また、不眠傾向にある方には、状況に応じて、主治医・家族様と相談し、不眠時薬を服用して頂き、見守りを強化している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医指示の元、服薬内容について職員が一人一人認識を高め、把握できるように個人ファイルにお薬内容をつけている。配薬・服薬に関してもWチェックを行い、ミスが無い様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人の家族様等から得た情報とグループでの生活パターン等から、その方らしい生活を送って頂けるように支援している。又、個別支援を行い、個々に応じた気分転換を図って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての利用者様に少しでも外出して頂けるように、散歩やドライブ等、声掛けを工夫したり、家族様にご協力頂き、機会を増やしている。	職員数の調整が必要な為、外出は身近なところが多いが、散歩のチェック表を作り、どの利用者も、少しでも外の空気にふれることができるよう、支援している。ドライブの際には利用者には、どの方面に行きたいか尋ねて出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持たれている方が、買物等のご要望をされた際は、一緒に行けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にいつでも電話をして頂けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に居心地良く過ごして頂けるように、毎日の清掃と空調や採光に配慮している。又、季節に応じた飾りつけ等を行い、季節感を味わって頂けるように工夫している。	各ユニットは建物が別で共用空間の位置も異なるが、自由に心地よく過ごせる場となっている。感染症を防ぎ快適に過ごせるよう室内の温度や湿度に気を付け、必要に応じて加湿器や濡れタオルを使用している。玄関先のプランターで野菜等の世話をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様一人一人が、その時々で気分が自由に過ごして頂けるような空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が最も居心地良い空間となるように、家族様などにも協力を得て居室作りを行っている。	自宅で使っていた馴染みのものを配置して落ち着いた居宅になるよう家族に働きかけ、写真を置くなどしてその人らしい部屋となっている。利用者がいない時は窓を開けて外気を取り入れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が自立した生活を送って頂けるように、「出来ること」「わかること」を職員一人一人が認識し、利用者様の自立または維持出来るよう支援している。		